

東証スタンダード市場

証券コード 6382

中期経営計画 2026-2030

2026年4月27日

トリニティ工業株式会社



テクノロジーで
地球にやさしい未来へ

トリニティグループの目指す姿 …… P3

経営目標 …… P5

成長戦略 …… P6

財務資本戦略 …… P17

TRINITY VISION 2030

創立50周年に向けて

テクノロジーで地球にやさしい未来へ



従業員の
しあわせ

お客様のよろこびと感動



「よい品」「よい仕事」の 創造

- 期待を超える商品・仕事
- 「熱・水・空気」の総合エンジニアリング技術と「塗装・加飾技術」の粋を集めた商品・仕事
- 変化する時代を生き抜く「次の一手」



たくましい人材と 人材を育む風土

- 心身の健康・揺るぎない安全基軸
- 既存の殻を打ち破り、自ら考え、自ら行動する人材
- チャレンジ精神・誇り・やりがいを育む風土

- 全世界のお客様・従業員とその家族、仕入先・株主・地域社会
- その期待を超えて生まれるよろこび・感動・しあわせ

信頼・感謝



創立50周年（2030年）に向けて、私たちは「たくましい人材」が「よい品」「よい仕事」を生み出し、「**お客様のよろこびと感動**」へとつなげることで、ファンづくりを通じた好循環を実現する未来を描いています。

「テクノロジーで地球にやさしい未来へ」

というメッセージを掲げ、これからの社会や地球に必要とされる会社であり続けるため、TRINITY VISION 2030の実現へ向けて挑戦を続けていきます。

TRINITY VISION 2030

- テクノロジーで地球にやさしい未来へ
- お客様のよろこびと感動

実現に向けた取り組み【中期経営計画（2026-2030）】

成長戦略

- 既存事業(設備・部品)プレゼンス維持・向上
- 海外機能強化
- 新市場開拓・新領域開発
- 経営基盤強化

財務資本戦略

- 企業価値(収益性・株主価値)向上
- 戦略的な資金配分(キャッシュアロケーション)
- 株主還元強化



経営目標



	2025年度 実績	2026年度 予想	2030年度 目標
売上高	389億円	400億円	500億円
営業利益	31億円	20億円	50億円
営業利益率	8.2%	5.0%	10.0%
PBR	0.57倍	—	PBR1倍以上 ROE10%以上
ROE	8.0%	—	早期達成



目指す姿

塗装領域を起点とした「環境×デジタル」技術のパイオニア

トリニティの強み

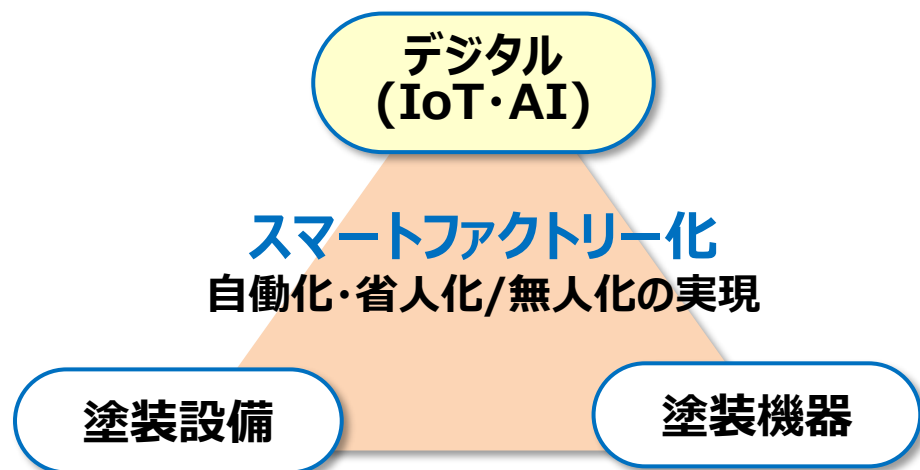
- **塗装工程のトータルコーディネート**
塗装設備・塗装機器の総合的な知見を活かした最適プランニング
- **環境負荷低減技術**
超高塗着エアレス塗装機、ドライブース 等
- **デジタル・IoT技術**
工場全体の熱エネルギーマネジメント
設備稼働データの一元管理システム 等

将来への取り組み

- **塗装工程全体のコンサルティング**
ターンキー受注による業務領域拡大
(企画策定から施工・アフターサービスまでの一括対応)
- **環境負荷ゼロに向けた革新技术**
塗着効率100%への挑戦、更なる省エネ設備の開発
- **デジタルビジネス拡大**
工場全体の統合モニタリングとAI自律制御
デジタルツインを活用したDX推進 等

TOPIC① スマートファクトリー化の提案

- 塗装設備・塗装機器とデジタル技術を融合、AIによる分析・判断を通じて設備を自律的に制御・管理し最適化



効率的な技能伝承

人手不足解消

品質安定化・向上

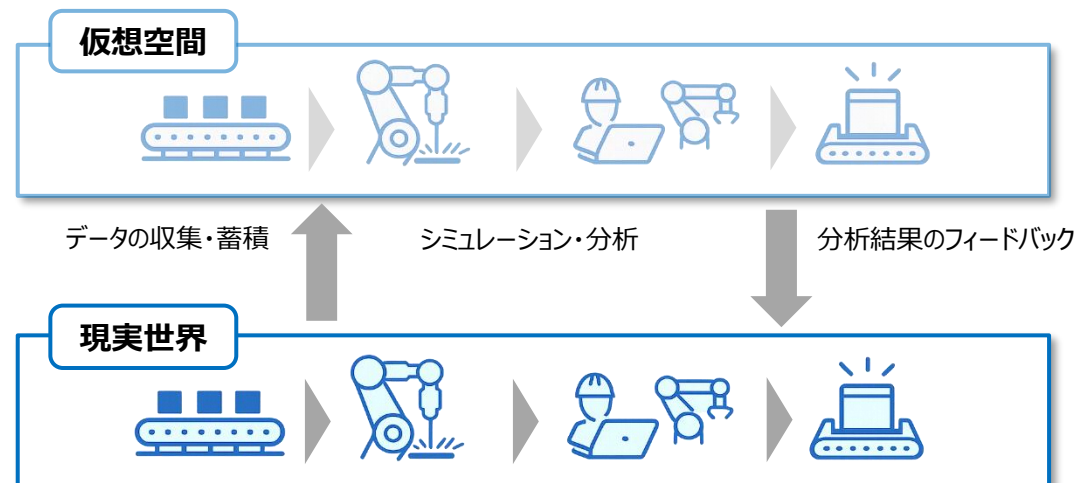
コスト競争力向上

設備故障の予兆管理

リードタイム短縮

TOPIC② デジタルツイン活用

- 現実の設備・工程を仮想空間上に再現、データに基づいた検証・フィードバックにより作業効率および生産性を向上



目指す姿

「加飾×環境」技術で、未来のニーズに応える付加価値を提供

トリニティの強み

- **視覚・触覚等の感覚に働きかける機能加飾**
塗装・レーザー加飾・水圧転写等の組み合わせ
- **モノづくり現場で磨いた自動化技術**
塗装+組付・検査・搬送まで自動化
- **自社製 環境対応塗装ライン**
CO₂排出量実質ゼロを実現

将来への取り組み

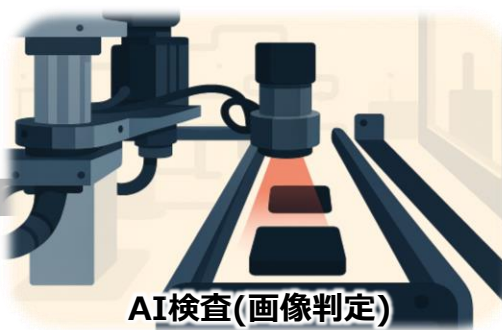
- **次世代加飾技術開発と新領域拡大**
共創による新たな付加価値創出と
自動車以外の領域へ拡大
- **製造工程の自動化・省人化/無人化**
自社工場のスマートファクトリー化
- **次世代 環境対応ライン導入**
働く環境と地球環境にやさしい生産現場

TOPIC 自社工場のスマートファクトリー化

■ 自動化技術とAI活用により、設備を自律的に制御・管理し最適化

- ・ 生産設備の予兆管理によるライン停止リスクの低減
- ・ 設備・作業データの一元管理による品質の安定化
- ・ 熟練技能のカンコツの形式知化・伝承による持続的な工場運営

工場景色の刷新「3S」
Safety・Smart・Sustainable



省人化/無人化

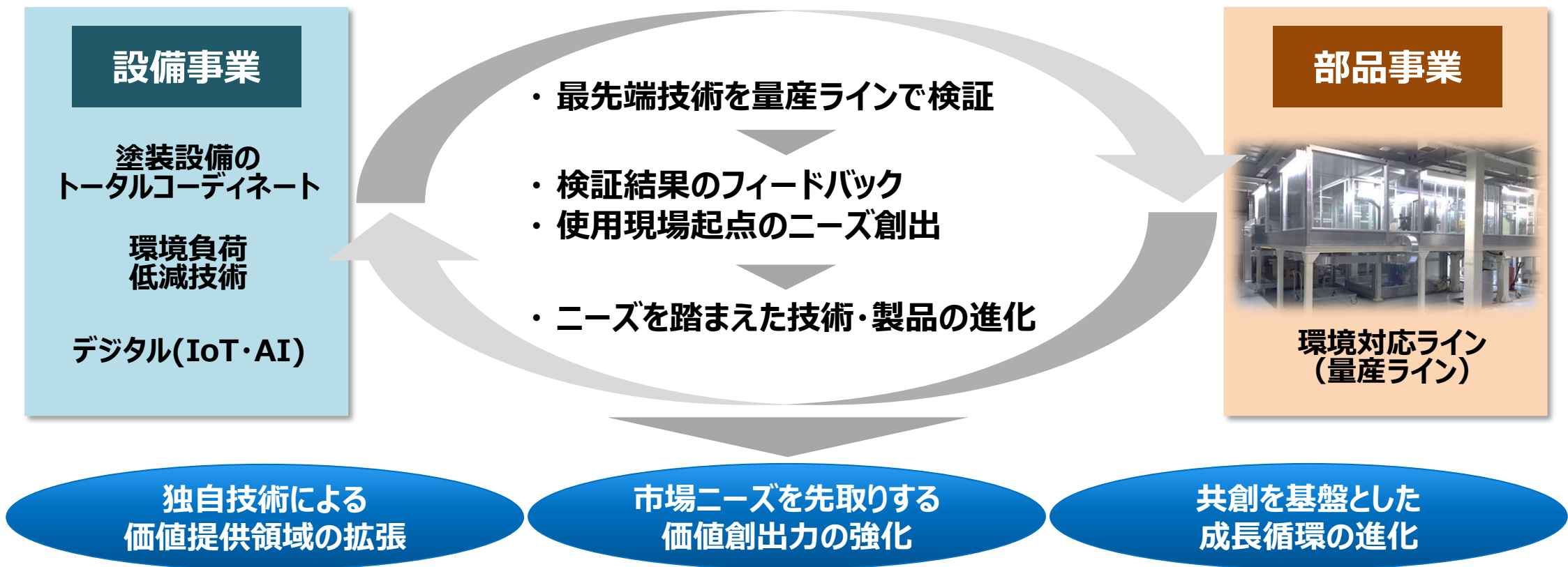
品質安定化・向上

効率的な技能伝承

コスト競争力向上

設備×部品の循環連携により、新たな価値を創出

- 二つの事業の強みを活かした循環連携による、社会の期待に応える次世代技術・新たな価値の継続的創出と成長領域の拡大

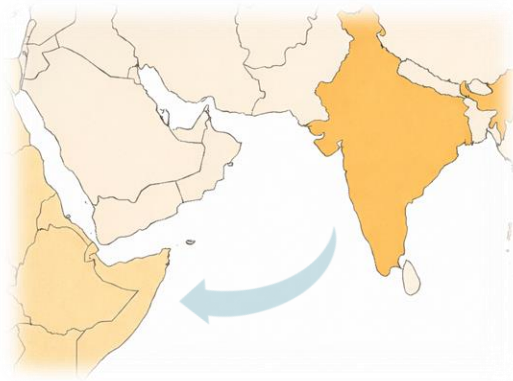


現地法人の機能強化

- お客様の課題解決に向けたセールスエンジニアの育成
- 現地対応領域の拡大 (施工管理・設備調整などを含めたプロジェクト全般対応)
- 現地設計能力の強化 (拠点間の連携・相互補完による最適化)

TOPIC① インド事業の強化

- 成長市場の拠点拡充と体制強化
- 将来成長が見込まれる地域へのサポート拠点化

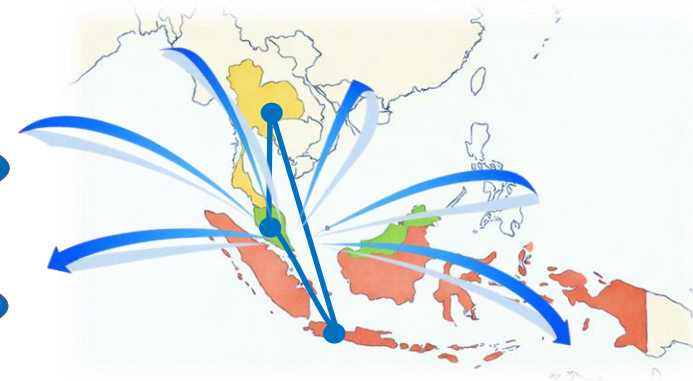


グローバル連携による相互補完

お客様拠点への対応力の強化

TOPIC② 海外拠点連携

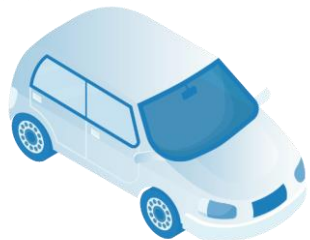
- タイ・インドネシア・マレーシア間の技術相互支援
- ASEAN地域全体への対応ネットワーク構築



非自動車産業への積極的な拡大

- 自動車で培った知見と高い技術力を核に、厳しい環境下で使用される製品を中心に拡大

自動車



知見
技術

建設機械



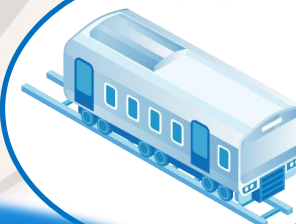
農業機械



産業車両



電車



幅広い産業へ伸張

制御盤



給油機



家電

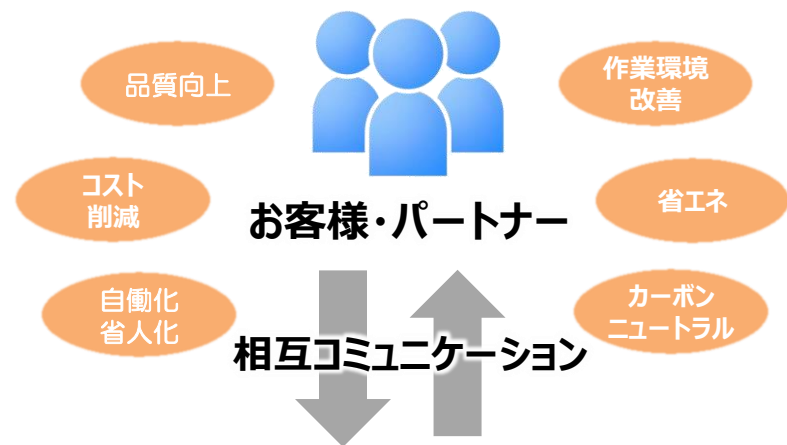


住宅設備



Trinity Technical Solution Center (TTSC) : 共創による未来への挑戦

新たなアイデア、オンリーワン技術を生み出し、技術の未来を切り拓く



■ 共創による価値創造

お客様やパートナー企業との課題解決型ワークショップ、技術交流を通じ、「製品（モノ）」に加え、「価値・体験・サービス（コト）」を共創



共創ソリューションエリア

■ 社会に必要とされる技術開発

塗装の未来を変える研究開発の推進
（IoT・AI活用、塗装設備の自律化 等）
環境負荷低減を実現する新技術の創出
（エネルギー転換（電化・水素化）、資源循環 等）

■ 次世代の人材育成

お客様やパートナーとの相互コミュニケーションを深め、課題解決・提案・新技術創出に挑戦を続ける「たくましい人材」を育成

モノづくりの進化を支える基盤技術の確立

■ 変化に対応する自律型生産

現場の変化をリアルタイムに捉え、加工点の柔軟な制御と自律化による、製造工程と工場全体の最適化

■ データ起点の価値創出

集積データを活用した予兆管理により、生産オペレーションからメンテナンスまでを一貫して支える新たな付加価値型サービスを展開

■ 生産準備プロセスの革新

現実空間と仮想空間を連動させ、生産準備や量産開始までのリードタイム短縮と精度向上を実現

「データ×自動化」による
既存領域の新たな価値創出

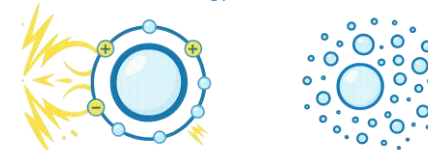
未開拓領域の技術開発

■ 化石燃料に代わる新エネルギーの利活用



■ コア技術を応用した製品・システムの開発

Electrostatic technology Fine bubble technology



■ 地球資源の循環を加速する技術革新

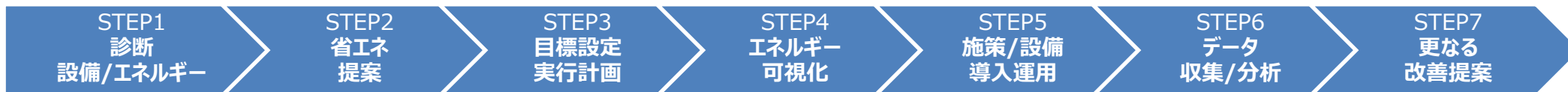


「環境×デジタル」技術を融合させた
新領域の技術開発を推進

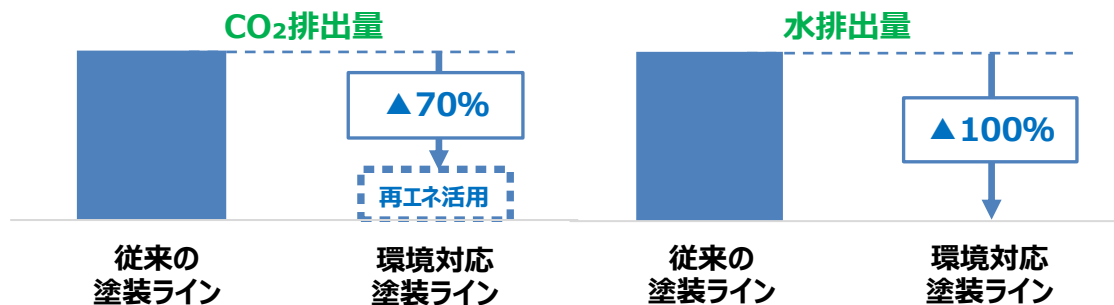
お客様・自社のカーボンニュートラル・サーキュラーエコノミー推進

■ 環境コンサルティング

お客様のカーボンニュートラル実現に向けて、診断から提案、効果検証までトータルサポート



■ エネルギー効率・排出削減に優れた次世代環境対応設備の導入



※自社製 環境対応塗装ライン (新設実績：オール電化塗装ライン)



自社製 環境対応塗装ライン (オール電化塗装ライン)

■ 資源循環技術 等

廃棄物削減・循環利用を進め、環境負荷の最小化を推進

■ 塗装設備(既設)のCO₂排出量削減目標 (2030年) … 53%削減 (2013年度比) ※2050年目線…CO₂排出量実質ゼロ

成長戦略 | 経営基盤強化【人への投資】

多様な人材の採用・育成・配置

- **成長戦略達成に向けた採用強化**
採用手法拡大（メディア活用、AI/テクノロジー活用、スカウト採用） 等
- **成長のための人材育成**
デジタル推進人材、スペシャリスト/マルチ人材、マネジメント層の育成 等
- **最適配置の取り組み**
個人の成長・能力拡大のための異動促進、生産性向上を通じた挑戦機会の創出 等

イキイキと働ける風土・制度づくり

- **ワークライフバランスを基盤とした柔軟な働き方推進**
年次有給休暇の活用推進、男性育児休業の取得推進 等
- **DEI推進、職場環境改善**
女性/シニア活躍の推進、オフィス・工場休憩所のリノベーション継続 等
- **健康経営と安全文化の深化**
誰一人取り残さない健康経営、安全文化を支える人づくりの強化 等

**全員活躍！
全員主役！**

- ・一人ひとりの働きがい
- ・心身の健康と安心
(Well-being)

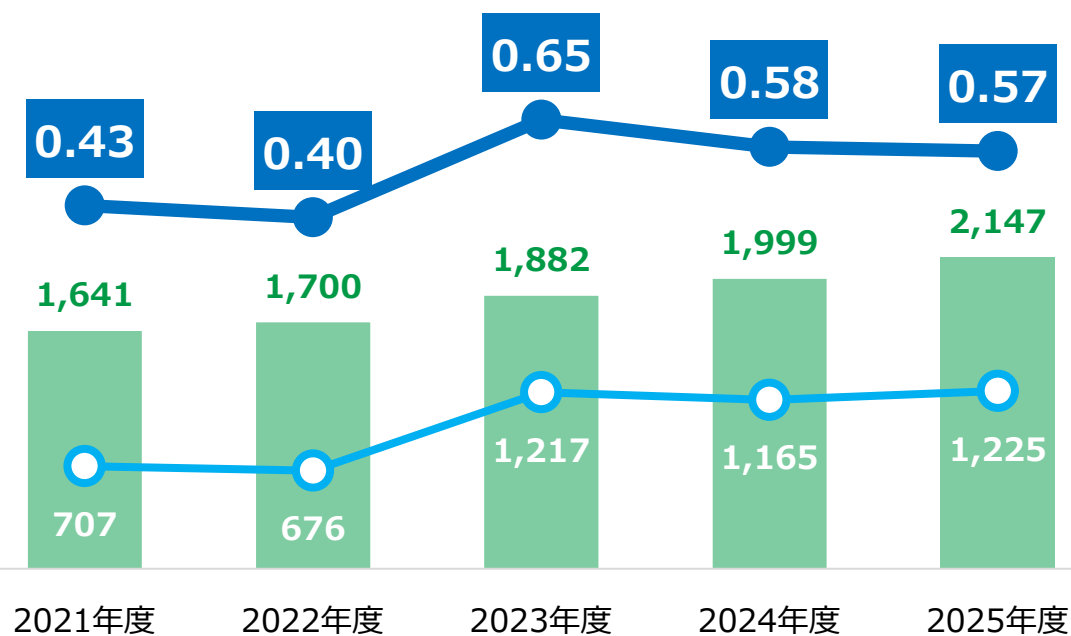
財務資本戦略 | PBR・ROEの現状認識

- PBR : 株価は高まってきたものの、1倍以下で推移
- ROE : 株主資本コストを上回っており改善傾向

PBR

期末株価 ÷ 1株当たり純資産

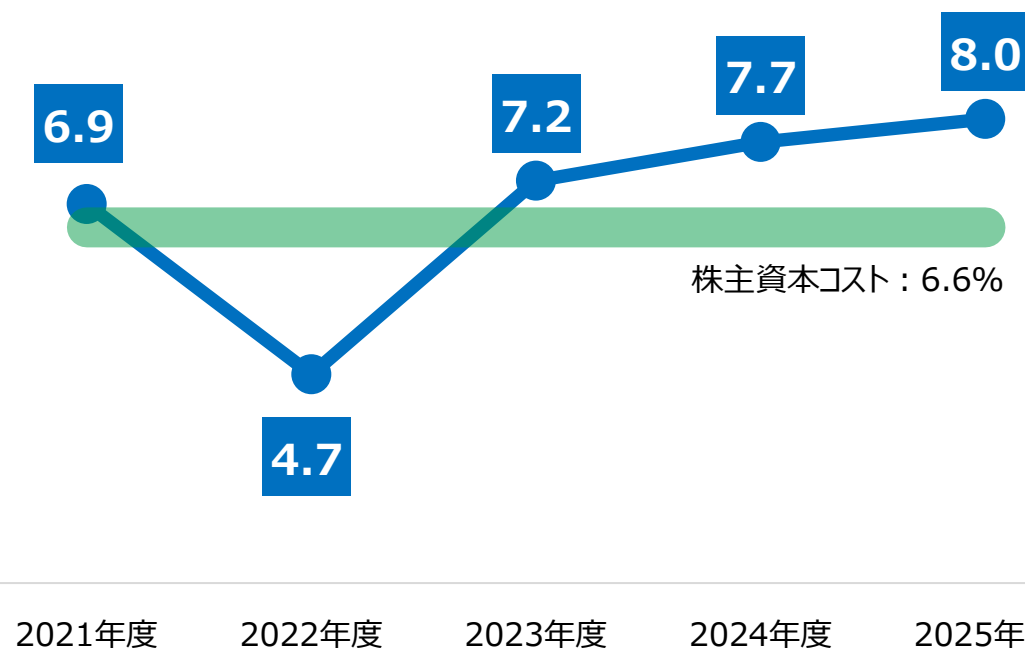
■ 1株当たり純資産(円) ● 期末株価(円) ● PBR(倍)



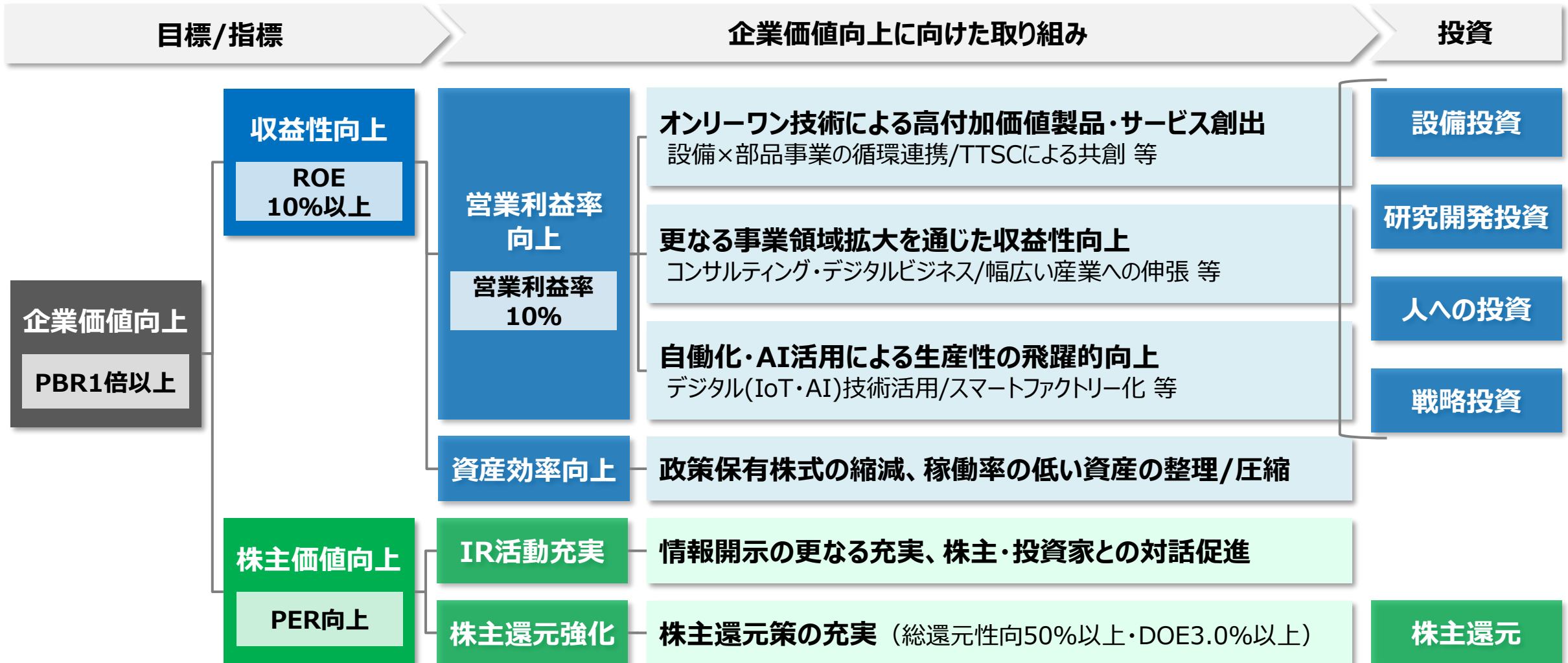
ROE

純利益 ÷ 自己資本

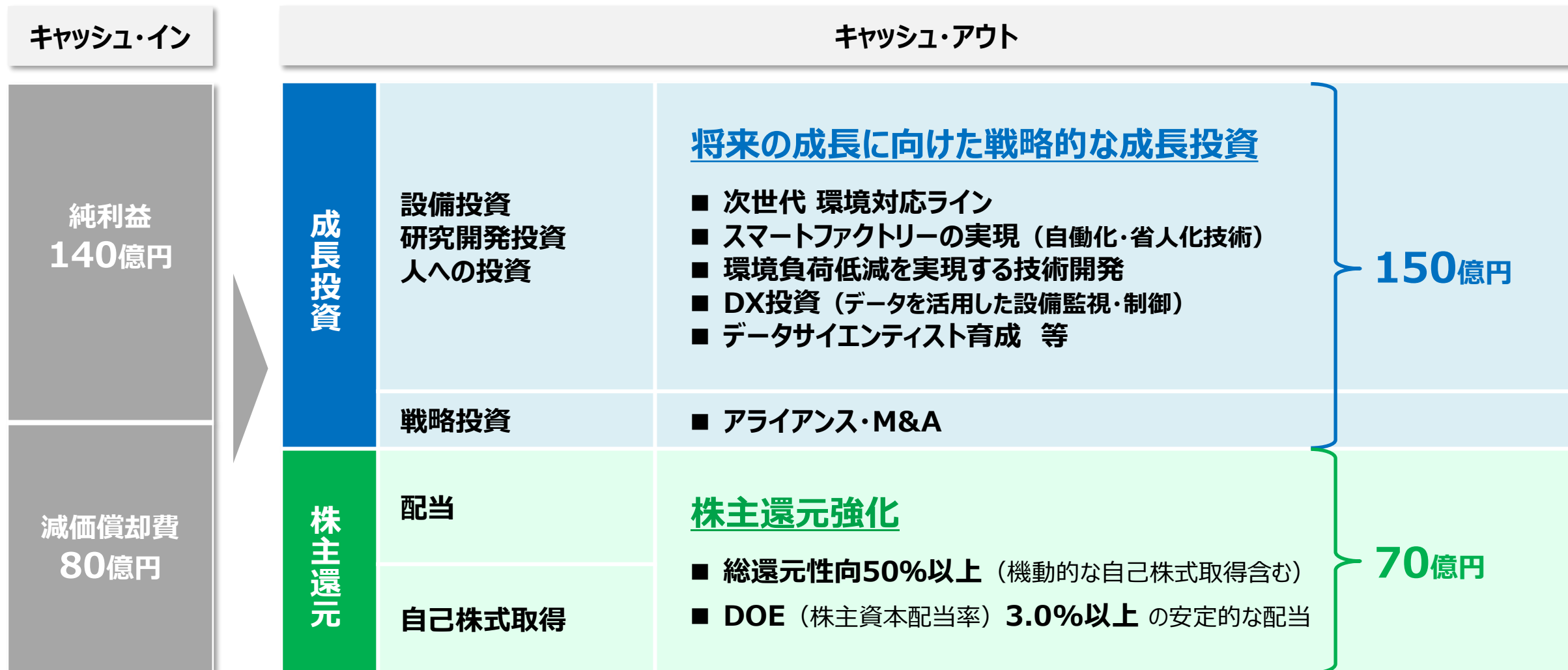
● ROE ■ 株主資本コスト



ROE・PER向上により、PBR1倍以上の早期達成を目指す



5年間で総額220億円の資金創出、成長投資と株主還元を両輪で推進



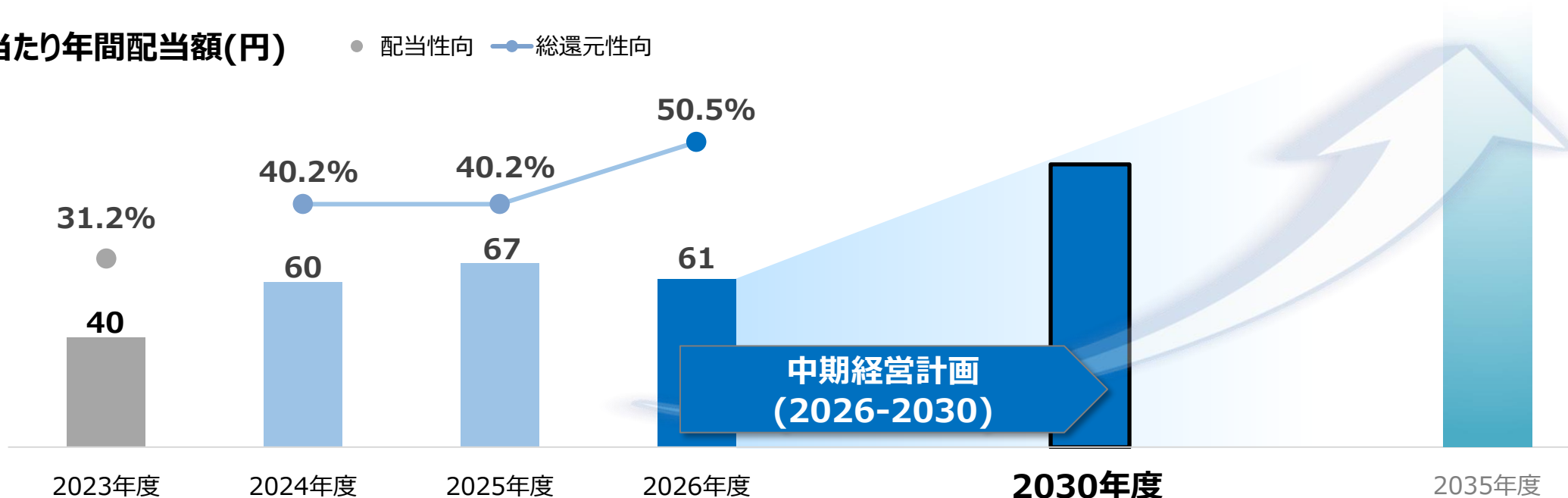
財務資本戦略 | 株主還元強化

- **総還元性向 50%以上**（機動的な自己株式取得含む）
- **DOE（株主資本配当率） 3.0%以上** の安定的な配当



1株当たり年間配当額(円)

● 配当性向 ● 総還元性向



DOE : 2.4% 3.4% 3.6% 3.1%



トリニティ工業株式会社
TRINITY INDUSTRIAL CORP.

本資料の取り扱いについて

本資料に記載されている内容は、資料作成時点の当社独自の判断に基づくものであり、経済状況や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。記載された将来の施策の実現を確約したり、保証するものではありません。